おお大勝利

平成 27 年度山東サッカー部報第 15 号（11 月 4 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢ・ＯＧの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

あっけなく山東の今季幕を閉じる

10 月 17 日（土）第 94 回全国高校サッカー選手権大会の山形県予選三回戦。山東の相手は蔵王工業⇒蔵王高校⇒山形明正と校名変更して今に至り、近年人工芝ピッチを有し急速に力をつけている明正。指導陣も、**A級ライセンス保持者の監督**[1]の下、手厚い指導スタッフを擁する。たびたびこの部報内で述べていますが、これからの山形を牽引するチームと目される。対する山東。伝統校ではありますが、最近の戦績はパッとしない。何とかここを突破し、ベスト８入りしたい。場所は天童の県総合運動公園の第二運動広場（人工芝）。

いつも通り、**清野総監督（後援会名誉会長）、岸後援会会長、後藤報道局長**がお見えになる。そして今週も、**山南からちょっと駅方面に下がったところに独立開業した志田トレーナー（楽トレスペース Green）**が来て下さった。満足に謝礼も支払えていないにもかかわらず、本当にすみません。

試合が始まると、普通にボール保持され、押される。前の週の明正の試合を観ていて、しっかりボールを収めながら試合ができる（遅攻ができる）チームとの印象を受け、技術力・戦術理解に警戒しておりましたが、「やはり」と思わざるを得ない。山東も最後の最後頑張っており、ボールを奪うシーンもあるが、最初のパスが合わなかったりコントロールをミスしたりで、**奪い際にすぐ奪われる**。端的に言えば、明正の「攻から守への切り替え」の素早さの餌食になっている、ということですが、**素早い切り替えをいなす（少なくとも奪われずにボールを確保する）だけの当たり前の技術に欠ける**ともいえる[2]。**親子対決を狙ったわけではないがこの試合先発で出場させた１年ベジータ**も、力が湧き出ないのか、ボールロストが多い。徐々に最終ラインもこらえきれずにシュートを打たせるシーンも出てきて、いつ失点してもおかしくない状況になってくる。しかし、明正のシュート精度に助けられ、**前半をスコアレス**で折り返す。

「この試合、前半失点ゼロはもうけものだ（だから後半は思い切って行け）」と**近年よく**

---

[1] ちなみに私はＣ級ライセンスしか持っていません。ほんでもって、そのライセンスを取得する際のインストラクターは上記の明正監督さんでした。

[2] たとえば、右ＳＨで先発したカズマは、右サイドで縦パスをもらう際、体を中に向けて相手ゴールに近い方の右足のインサイドでボールをストップしてからすべてのプレーを始めるので、右足にボールをストップした瞬間に狙われたら何もできない（実際に明正戦ではトラップ際狙われてボールロストを繰り返していた）。そこに「相手が近寄ってきているからボールを引いて半回転して前を向こうか」とか「中側に方向付けして相手をいなそうか」とか、「相手に体を預けながら左足のアウトで止めようか（左足のアウトで外側に反転しようか）」などの判断が一切ない。判断できていない、とまとめるのは簡単ですが、私見ではこれは、技術が圧倒的に欠けていて様々なボールのストップ法（コントロール）が身についておらず、**プレーが≪相手に合わせたボールのストップ＝トラップ（罠）≫になっていない**という現象。すなわち山東の選手、**技術が圧倒的に欠けているために判断ができない（判断の選択肢が圧倒的に少ない）**、という現状にある。ちなみにこの現状は、大なり小なり山形県全体に当てはまり、**「日本の選手は技術はあるが判断が伴っておらず、技術を活かせていない」との全国的なまとめとのかい離**を思わせます。

口にするようになった発言[3]で選手を励まし？後半のピッチに向かわせる。しかし試合内容は簡単には好転せず。明正に押されるゲーム展開。カウンターも前線がボールを確保できないので成立せず。ほとんどチャンスらしいチャンスが作れず。対して明正も何となく押し気味ではあるが、得点できずに時間が過ぎる。とまあ、**この試合の前の第一試合「日大山形ＶＳ東海大山形」の豪華な三回戦のアップテンポさとは打って変わっての、まったりした試合**[4]。後半の中盤、**山東ＣＢとＧＫがボール処理で「お見合い」し、相手ＦＷにボールを掻っ攫われ失点**するという、ものすごくくだらない形から均衡が崩れる。山東の現在の姿を如実に示すつまらない失点。失点後、また最近の山東の試合に多くあるように、反転攻勢に出る。失点前と違って勢いを感じる。**「勢いをもって攻撃できるんだったら始めからしろよ」**と観戦者の誰もが思う攻撃をちょっと見せるものの、結局ゴールをこじ開ける力強さはなく。この試合、**そのまま０－１で敗戦**。

試合内容から考えて、明正は勝利に値しました。方や、当たり前のコントロール・パスをミスなくこなすチーム、方や簡単なところでミス連発。結果に違いが出るのは当然です。ただし、山東は試合内容で負けても結果では勝つアイデンティティが発揮されなかった、と言っておきましょう。試合後、**応援に駆け付けた３年生部員有志**から、「先生、何でもっと前線でボールが収まらないことに対して怒らなかったんですか？（俺たちの時にはめちゃくちゃ罵詈雑言を浴びせていたじゃないですか――ここは３年生の気持ちを代弁する今野の表現)」と問いただされる。そこで、はたと気づく。「このチームへの要求のラインが無意識のうちに低くなっているのだな。」

その明正、翌日日大山形に粉砕され、結局選手権山形県大会は、準決勝で山形中央を下し決勝で羽黒を下した**日大山形の優勝**で幕を閉じました。山形県リーグ１部（Ｙ１）を全勝で優勝した日大ですから、優勝に最もふさわしかったチームといえるでしょう[5]。**日大山形の皆さん、本当におめでとうございます**。ここ 5、6 年を考えても、「今年の優勝は日大だろう」と誰もが予想したが決勝戦で敗れる「事件」が２度ありました。**18 年ぶりの選手権出場**だそうです。ようやく悲願達成といったところでしょうか。山形中央や羽黒が台頭し、日大の優勝が遠ざかっていましたが、**今回の優勝は日大スタッフの育成力の賜物**と思います。中学まで目立たなかった選手も、日大に行くと日大サッカーに完璧に「染まり」、ソルジャーに変身することは有名な話。山形東も日大山形には練習試合等でいつも鍛えてもらっております。これで、毎年選手権を「視察」している私も、応援に力が入るっていうものです[6]。**あの、縦への圧倒的な推進力をもったサッカーを、全国の舞台でぜひ発揮し、久方ぶりの勝利を山形県にもたらしてもらいたいものです。日大山形の皆さん、頑張って来て下さい**。

さて、山東は県新人に出場できなかったため、今季の公式戦は地区一年生大会を残すのみで、これにて閉幕。何ともさびしい年となりました。ただ、緩んでいる場合ではなく、力を向上させ来季につなげないと、来季は県総体にも出場できないという現実が待っているかもしれません。相当な危機感を持ってトレーニングに励みますので、引き続き応援よろしくお願いします。

---

3 この発言を多用しなくてはならない現状は情けないですね。
4 当事者は熱くなっているのですが、客観的に見たら、まったりに映ったでしょうね。
5 ちなみに、今季高体連のチームからプリンスリーグ東北に出ているチームはありません（山形県からはモンテユースのみ)。
6 年末年始は毎年妻の実家の埼玉で過ごすため、毎年選手権の試合は何試合も観戦している（よって視察というのはちょっと言い過ぎ)。4 年前からは、年始に埼玉遠征を敢行し、選手も選手権を視察しています。